

発展し続ける名取の経済的基盤を築いた英雄たち

I-3-①

古墳時代にあらわれた雷神山古墳や飯野坂古墳群などの大きな古墳が、名取平野に数多く存在することは、この地域に有力な豪族がいたことと、それをつくるための経済的基盤がしっかりしていたことを物語っています。

名取の祖先が弥生時代から引きついで稲作農耕技術を、耕地の開墾にとどまらず古墳づくりなどの高度な土木工事を行えるまでに進歩させていたのです。

豪族が死んだときには、その権力の象徴のために、大きな墓「古墳」に手厚く葬られました。それはまさに英雄のシンボルであったに違いありません。今日、発展する名取の経済的基盤を築きあげたのは、その英雄たちだったのです。



I-3-③-b



I-3-③-c



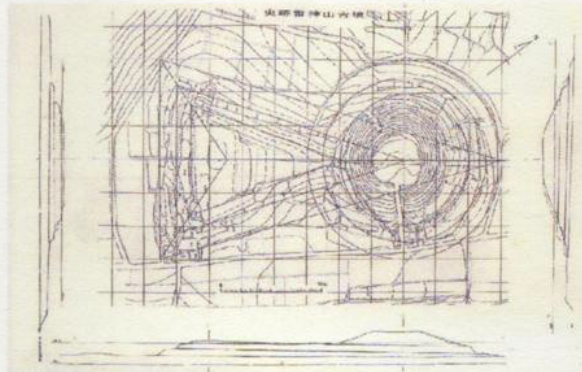
I-3-③-d



I-3-③-e



I-3-③-f



I-3-②



I-3-③-a

古墳をつくるのは、こんなにたいへん!

I-4-①

雷神山古墳について

現代に、模型と同じ雷神山古墳を平地にという条件で建造した場合の土量と、建造費（盛土の部分のみ）を算出してみました。（雷神山古墳の造営は、丘陵上のかたまりを利用したもので、地山を削り出し墳丘下部を造り、その上部は盛土で、いわゆる山上墳であるため、実際の土量ではありません。）

建造面積 : およそ 13,100㎡
土量 : およそ 77,800㎥

【築造機材及び土量、フラスケーター（掘削機）7台等】

◎ 小学校のプール（25m×17m×1m）で、183 杯分くらいになります。

<建造費算出>

※ 井：盛土に使う土は、築造場所より1km以内から掘削

機械工法 : およそ 86 百万円

人工工法 : およそ 2,294 百万円

※ 盛土に係る工事費だけ算出していますので、墓石、埴輪づくり、石室等の工事費は含まれていません。

- ・ 機械工法については、バックホウ、ダンプトラック、ブルドーザー、タイヤローラーを使用し、その他費用を合計した金額です。
- ・ 人工工法については、人力による掘削、積込、運搬、埋戻し、整列し、整形としその他費用を合計した金額です。

I-4-①

大仙陵古墳（仁徳天皇陵）をつくった日数と人の数・費用

ある会社が計算したところでは、大仙古墳（仁徳天皇陵）では15年8ヶ月の年月がかかり、延べ680万7千人が必要であったと言います。また、費用は今のお金で796億円かかるそうです。

でも、この中には埴輪づくりの費用は含まれていません

<費用内訳>

| 品名 | 数量 | 金額 |
|--------|------------|--------|
| 用地区画整理 | 399,000㎡ | 397 |
| 盛土用土 | 268,000㎡ | 283 |
| 円筒埴輪 | 139,000個 | 2,788 |
| 円形埴輪 | 893,000個 | 10,782 |
| 排水工事 | — | 3,654 |
| 盛土 | 742,000㎡ | 45,437 |
| 墓石 | 5,365,000個 | 1,892 |
| 埴輪 | 15,000個 | 59 |
| 石室 | 1式 | 40 |
| 埴輪作り | — | 1,904 |
| 調査等取立費 | 1式 | 517 |
| 調査費 | — | 1,536 |
| 一般管理費 | — | 10,393 |
| 計 | — | 79,677 |

【単位：百万円】

大仙陵古墳に使う土と墓石と埴輪の数

土量 : 1,405,866 ㎥

使う埴輪 : 30,329 個

使う墓石 : 14,605,690 個

<大仙陵古墳のデータ>

主軸の長さ486m・前方埴輪の径304m

前方丘の高さ約33m・後円丘の径243m・後円丘の高さ約35m

I-4-②